

解答・解説

解答

(1) ① (2) ② (3) ③ (4) ④

---

(1) 正解 ①

選択肢の和訳

① 研究者たちは、その場所にすでに生息していた生物を調査した。

② 研究者たちは、汚染された場所でも生存できる外来の昆虫を導入した。

③ 研究者たちは、地域住民に操車場全体へ木を植えるよう求めた。

④ 研究者たちは、その区域全体を石と枯れ木で覆った。

本文の対応箇所

第1段落第5～6文：

> Before removing it, researchers examined every organism already living there. They found that some insects and grasses had adapted to the difficult conditions.

解説

研究者たちは汚染土壌を撤去する前に、そこにすでに生息していた生物を調べました。外来生物の導入や住民への植樹依頼については述べられていないため、①が正解です。

---

(2) 正解 ②

選択肢の和訳

① その場所は、新しい集合住宅のために十分な土地を提供した。

② その場所は、雨水を吸収することで洪水を軽減した。

③ その場所は、夏の高温を完全になくした。

④ その場所は、動物が近隣地域へ入ることを防いだ。

本文の対応箇所

第2段落第4文：

> The park absorbed rainwater, reduced flooding, and cooled the surrounding neighborhood in summer.

解説

公園は雨水を吸収することで洪水を軽減し、周辺地域の気温も下げました。高温を「完全になくした」のではなく、動物の移動を妨げたのでもありません。したがって②が正解です。

---

(3) 正解 ③

選択肢の和訳

① 公園の維持費が、通常は都市にとって高額になりすぎるから。

② 殺虫剤を頻繁に使わなければ、在来植物は生存できないから。

③ 導入された生物種や殺虫剤の使用が、在来の野生生物に害を与える可能性があるから。

④ 住民は都市の緑地を造るあらゆる試みに反対することが多いから。

本文の対応箇所

第3段落第1～3文：

> Such projects still involve risks. A newly introduced species may become prevalent and threaten native wildlife, while excessive pesticide use may kill useful insects. Therefore, each project must be regularly evaluated.

解説

導入された生物種が増えすぎて在来生物を脅かしたり、殺虫剤が有益な昆虫を死滅させたりする危険があります。そのため継続的な評価が必要であり、③が正解です。

---

(4) 正解 ④

選択肢の和訳

- ① すべての野生生物を住宅地から遠ざけることによって。
- ② 利用できるすべての土地を住宅だけのために使うことによって。
- ③ 住民の意見を聞かず、科学者に決定させることによって。
- ④ 緑化された屋根や樹木などを備えた住宅を設計することによって。

本文の対応箇所

第4段落第1～2文：

> Housing scarcity also leads some people to argue that urban land should be used for homes instead. Supporters reply that green roofs and tree-lined housing can serve both purposes.

解説

本文では、緑化された屋根や並木のある住宅なら、人間の住居と自然環境の両方を支えられると述べられています。住宅か自然かの二者択一ではないため、④が正解です。

---

全訳

都市に自然を取り戻す

都市化が進むにつれて、自然の空間はしばしば失われていく。しかし近年、一部の都市では、放棄された工業用地を、動植物が生息できる公園へと変え始めている。その目的は、単に魅力的な景観を造ることではなく、機能する

生態系を再建することである。ある旧鉄道停車場では、燃料が土壌を汚染していた。研究者たちは土壌を撤去する前に、そこにすでに生息していた一つ一つの生物を調査した。その結果、一部の昆虫や草が厳しい環境に適応していたことが分かった。

市は、最も汚染された土壌だけを撤去し、回復を促進するために在来種の樹木を植えた。鳥や昆虫の生息地を提供するため、石や枯れ木も加えられた。数年以内に植物が繁茂し始めた。公園は雨水を吸収し、洪水を軽減し、夏には周辺地域を涼しくした。この成果に感銘を受けた別の地方自治体は、動物が都市内を安全に移動できるよう、複数の小さな緑地をつなげた。

しかし、このような事業には危険も伴う。新たに導入された生物種が広く増えて在来種の野生生物を脅かす可能性があり、殺虫剤の過剰使用が有益な昆虫を死滅させることもある。したがって、それぞれの事業を定期的に評価しなければならない。

また、住宅不足のため、都市の土地は住宅のために使うべきだと主張する人もいる。支持者は、緑化された屋根や並木のある住宅なら、両方の目的を果たせると反論する。都市の生態系は依然として脆弱だが、科学者と住民が協力すれば、より繁栄しやすくなる。計画者が双方の意見に注意深く耳を傾ければ、両者の異なる必要性は両立できるのである。